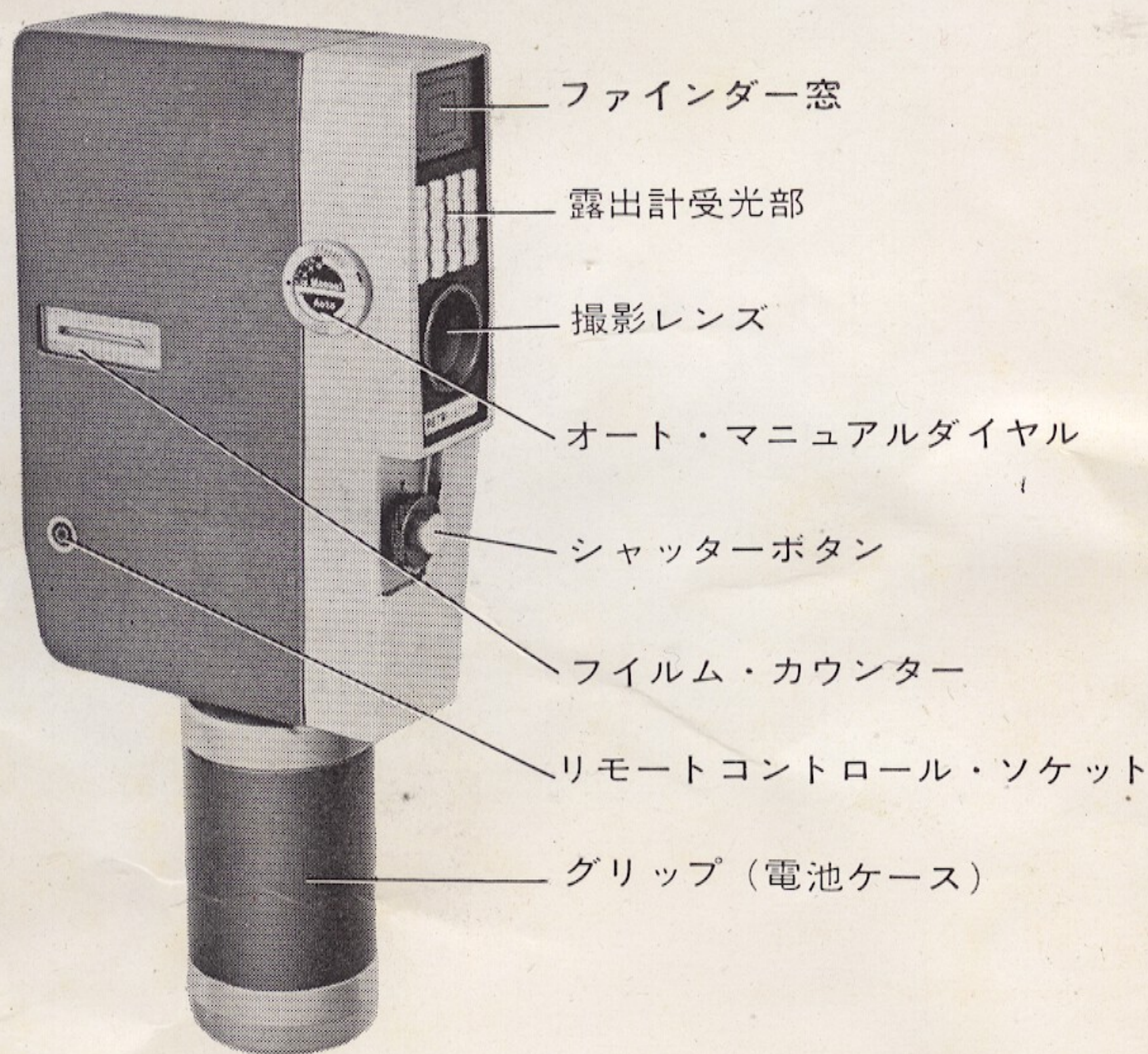


PETRI



INSTRUCTION BOOK



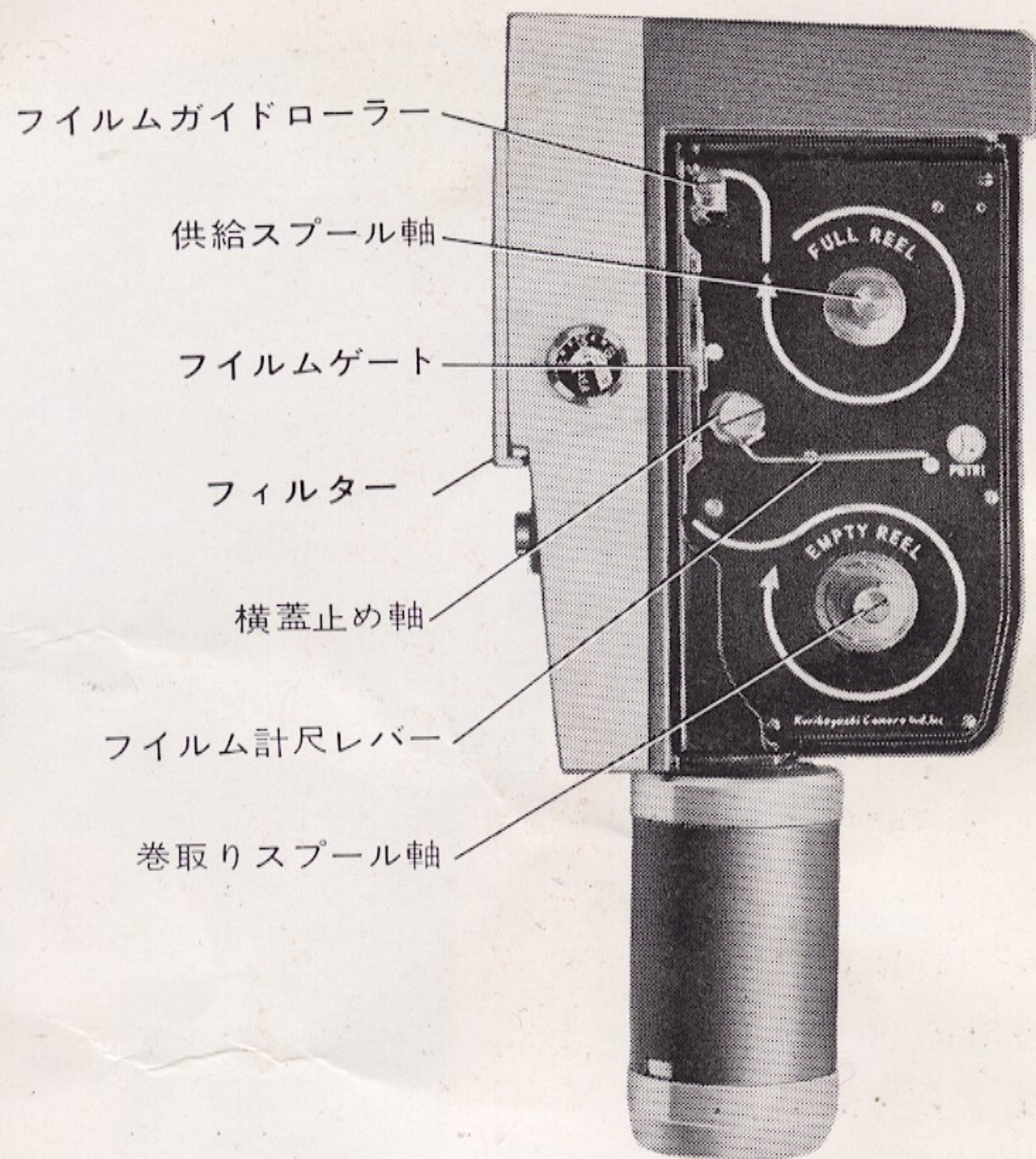
各部の名称

目次

各部の名称	2
テクニカル・データ	3
8ミリフィルムについて	4
ペトリ8の特長	5
電池を電池ケースに入れる	6
フィルムの入れ方	7
フィルム感度・自動絞り・マニュアル絞りのセット	10
シャッターボタンの使い分け	11
フィルムカウンターの残数表示	11
電気トリック・アイ機構の使い方	12
ペトリ8の構え方	14
ファインダーののぞき方	16
フィルムの入れかえと出し方	18
リモートコントロール撮影	20
ペトリ8のアクセサリ	20
明るい被写体には絶対必要なNDフィルター	21
フィルターの種類と用途	22
ペトリ8取り扱い上のご注意	23

テクニカル・データ

レンズ	ペトリ13mm 1:1.8 固定焦点式
駒速度	16コマ 露出時間 $\frac{1}{40}$ 秒
露出計	完全電気トリック・アイ・システム (自動絞り装置) ASA目盛10~40 マニュアル装置付
ファインダー	逆ガリレオ式 倍率0.46倍 E・E用シグナル 標準、望遠用マスク付 (広角は全視野)
シャッターボタン	安全ロック装置連続撮影装置付
フィルムカウンター	自動復元 残数表示式
駆動方式	電動式 単3乾電池4本使用 リモートコントロールおよびバッテリーテスター用ソケット装備
駆動能力	連続撮影でフィルム10本以上
寸法	30×136×93mm
重量	ボデーのみ 500g 電池共 620g



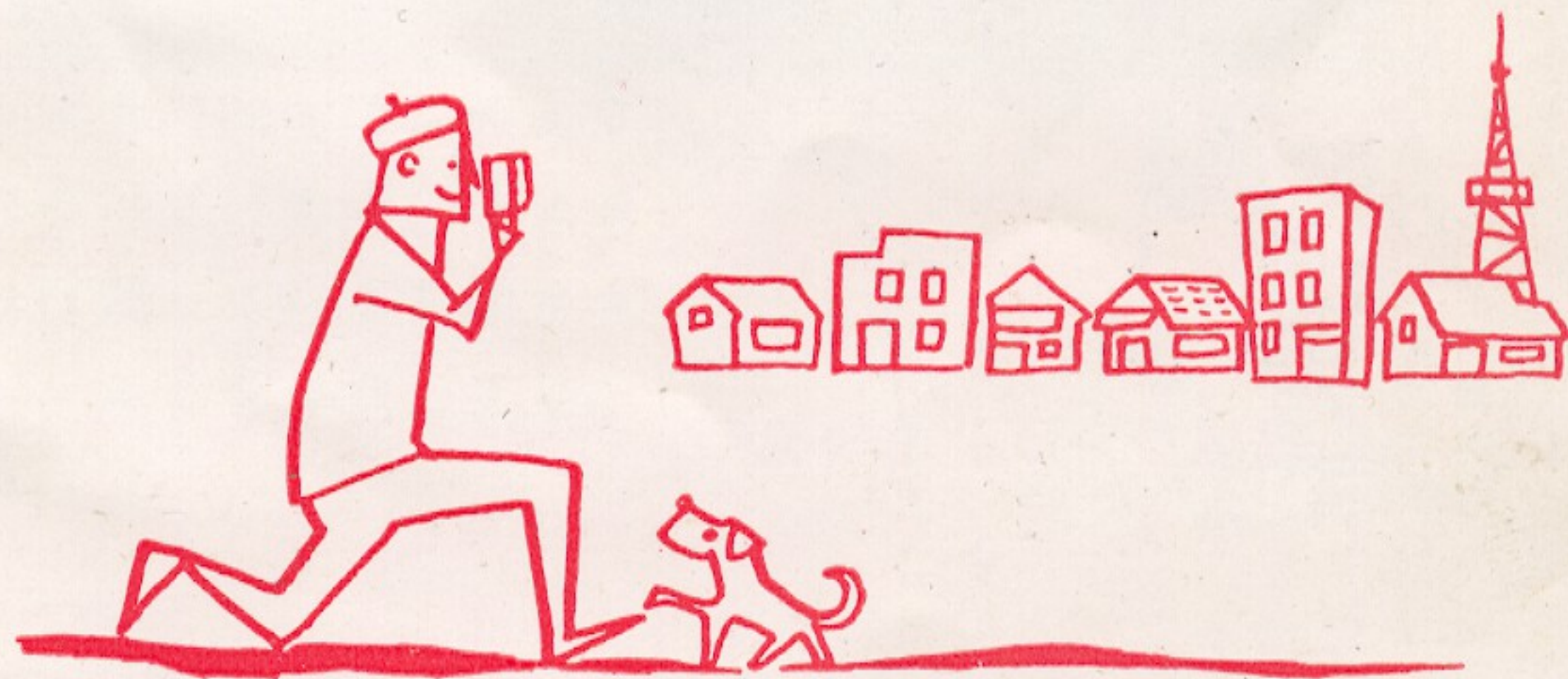
8ミリフィルムについて

ペトリ8に使うスプール・ローディングのW巾8ミリフィルムは、スプールに巻かれたままの16ミリ巾のフィルムで、長さは7.6メートル(25フィート)です。これを最初片側撮影したら、スプールを入れかえて更に他の片側を撮影します。つまり往復撮影するわけです。

撮影の終わったフィルムをメーカーに送れば、8ミリ巾に切断され、つながれて、長さ約15メートル(50フィート)の映写用フィルムとして返送されます。映写時間は約4分10秒です。8ミリフィルムの両端にはリーダー部およびトレーラー部として、それぞれ約1メートルのフィルムがついていますが、これは遮光用で撮影に関係ありません。

ペトリ8の特長

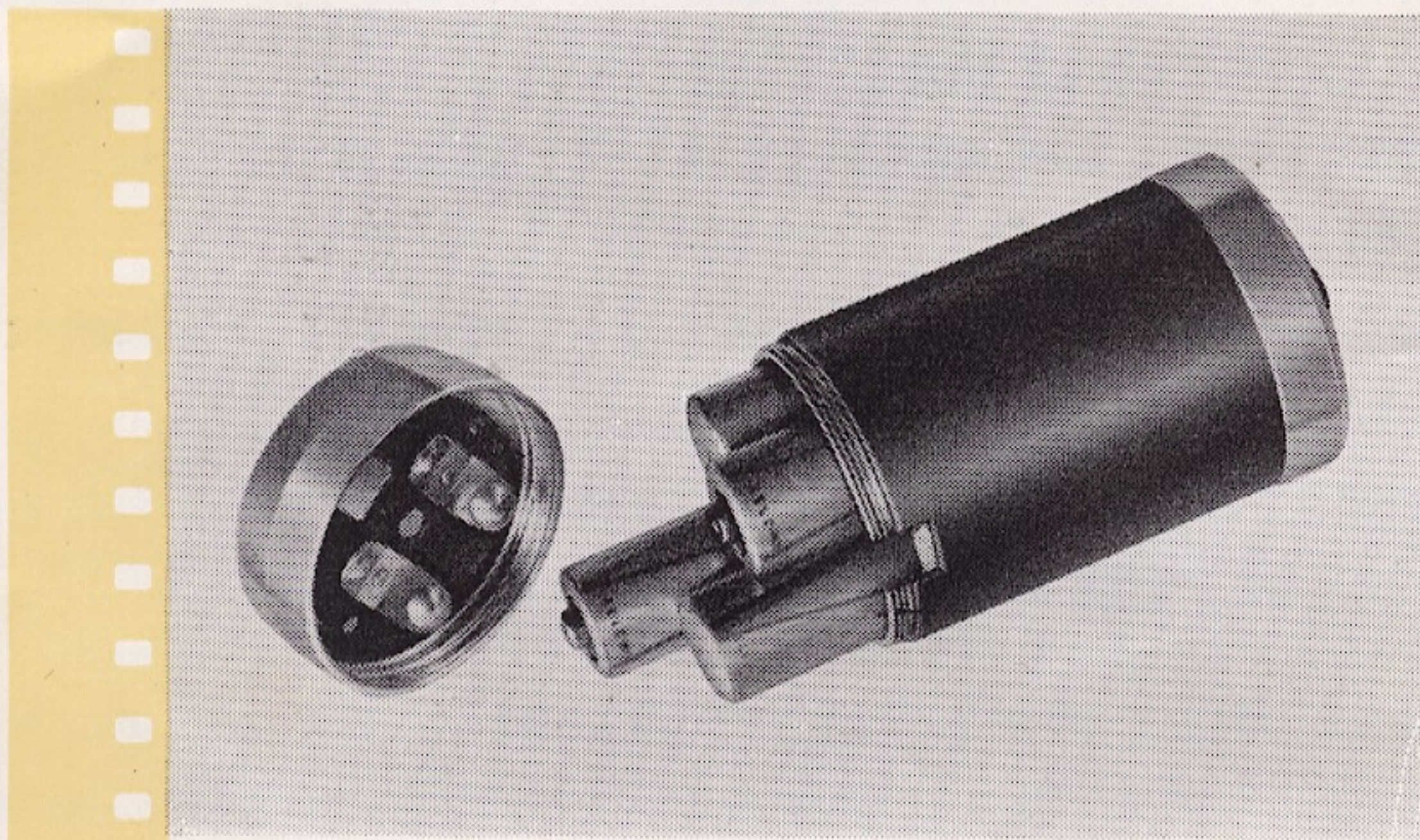
- ①被写体に向けワンタッチの押ボタン操作だけで快適なホームムービーがたのしめます。
- ②極めて薄型軽量であるため携帯に至便です。
- ③独自のエレクトリックアイ機構は、ファインダーをのぞきながら連動範囲を確認できます。
- ④特別設計のペトリ13mm 1:1.8レンズはピント調節の必要がなくすべてを鮮明に写します。
- ⑤電池ケースがグリップを兼ねているため、片手操作でもカメラブレしません。
- ⑥独特のフィルター形式により、その露出倍数は自動的に補正されます。
- ⑦リモートコントロール装置により、撮影者自身も同時に写りこむことができます。
- ⑧洗練されたスタイルと充実した性能は、初めての方ももちろん、ご婦人方にも好適です。



電池を電池ケースに入れる

ペトリ 8 は単 3 乾電池 4 本を直列にして、6 ボルトとして使用する電動式カメラです。付属のグリップが電池ケースになっています。

まず、グリップ下部をねじってはずし、中へ単 3 乾電池 4 本を、ケース内に示してある図に合わせて、プラス、マイナスを交互に正しく収めます。ケースの蓋の凸起を、筒の凹部に合わせてねじこめば装てん完了です。

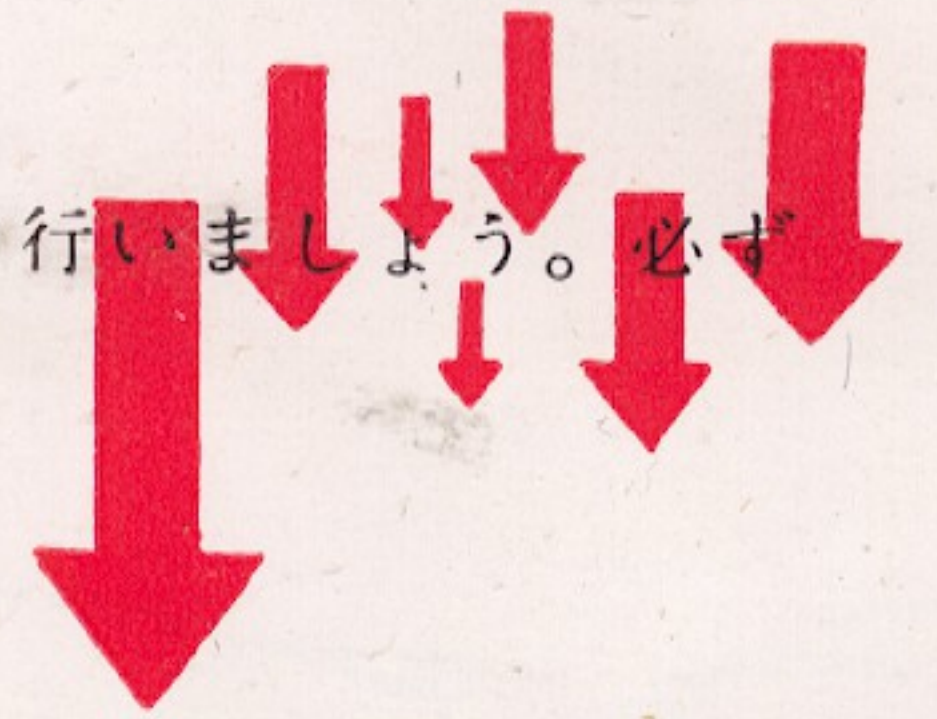


■ご使用の際は必ずこの電池ケースを、カメラ底部のねじ穴にねじこんで、グリップとしてお使いください。

■新しい電池ならば、連続撮影で約10本以上撮影ができます。但し、使用しなくても電池は自然放電しますから、3〜4カ月ごとに新しいものととりかえましょう。電池の寿命を知るには、バッテリーテスターを使用します。

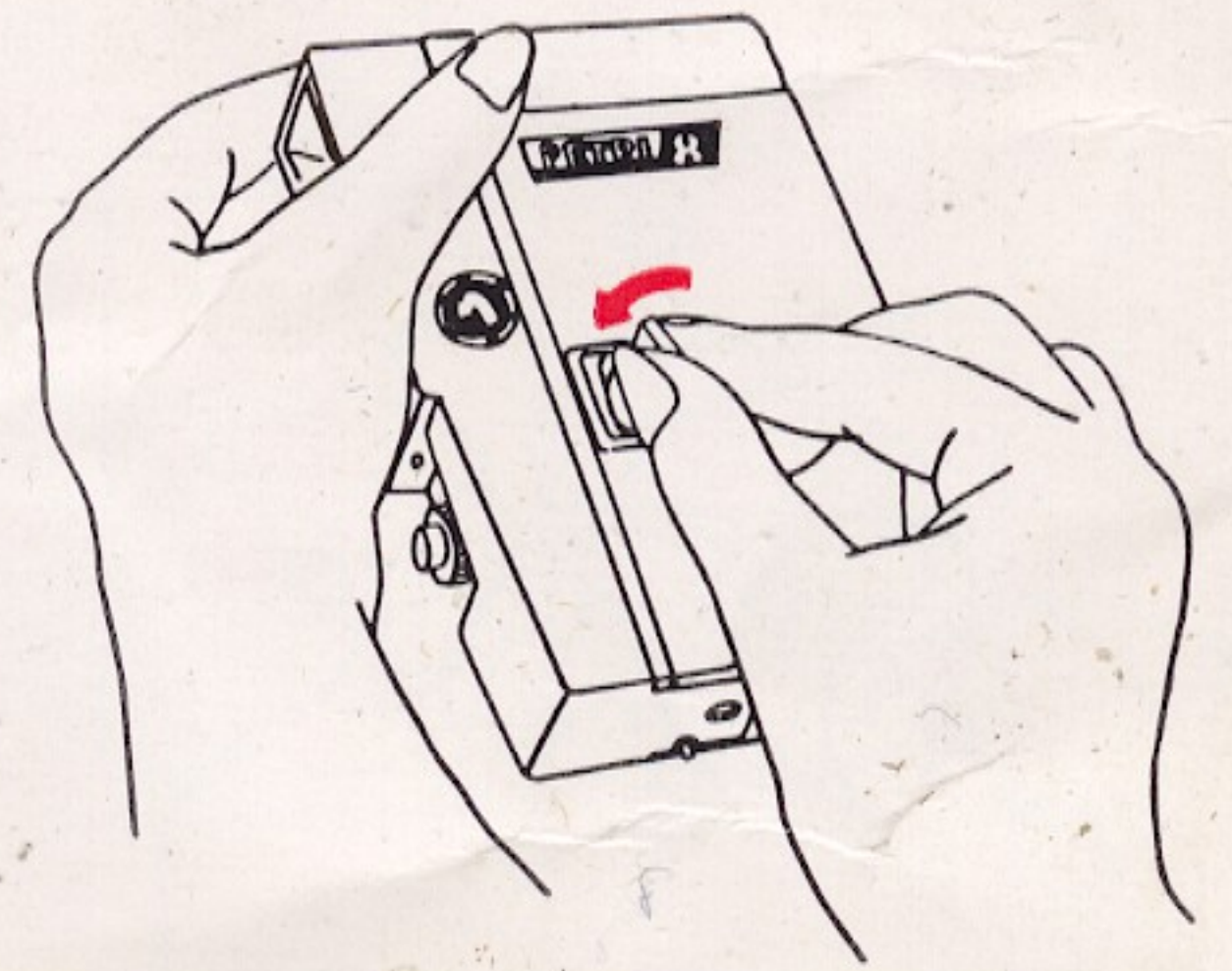
フィルムの入れ方

■フィルムの装てんは直射光をさけて行いましょう。必ず日蔭で装てんしてください。



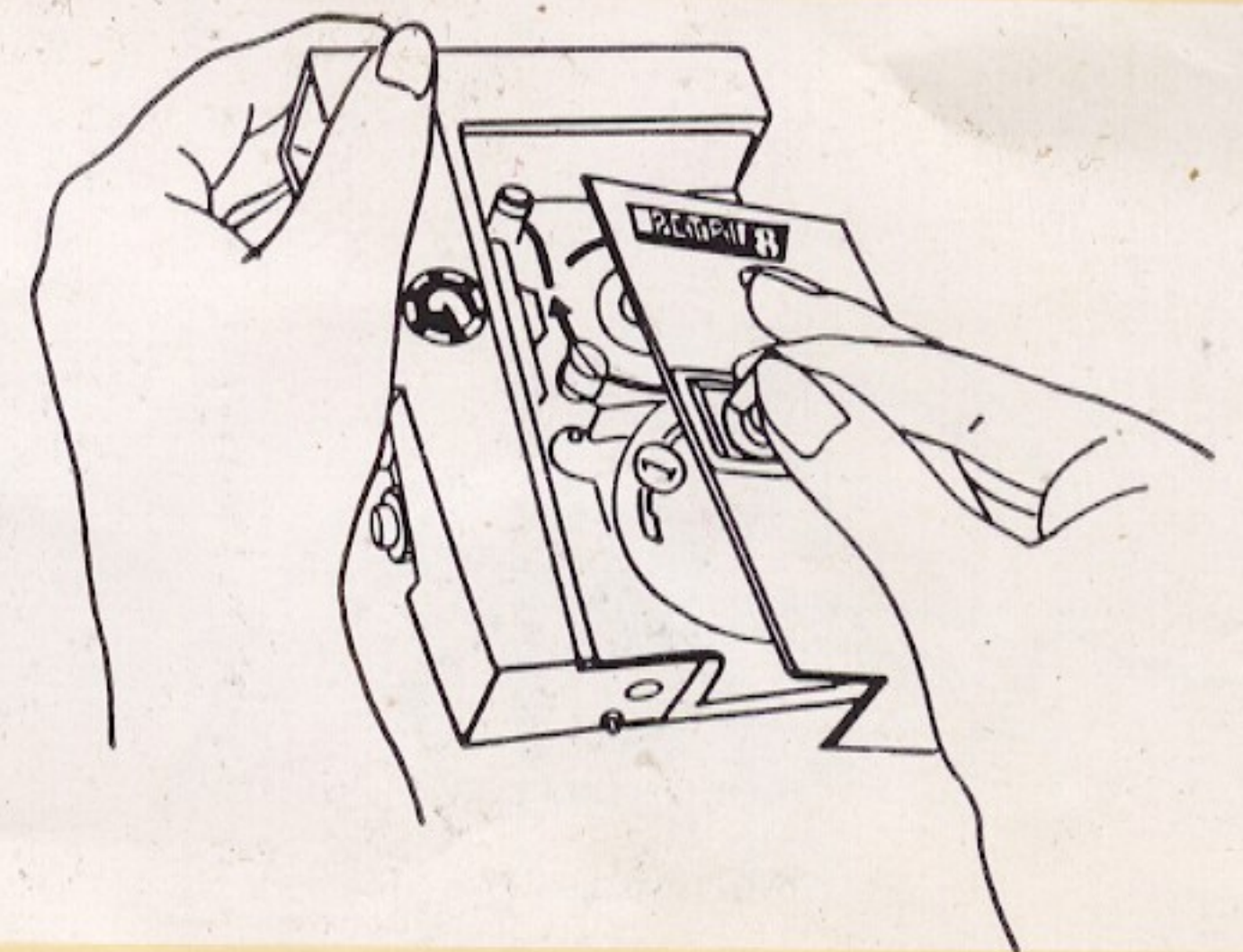
1

横蓋の開閉つまみを起し、矢印の方向に回転します。



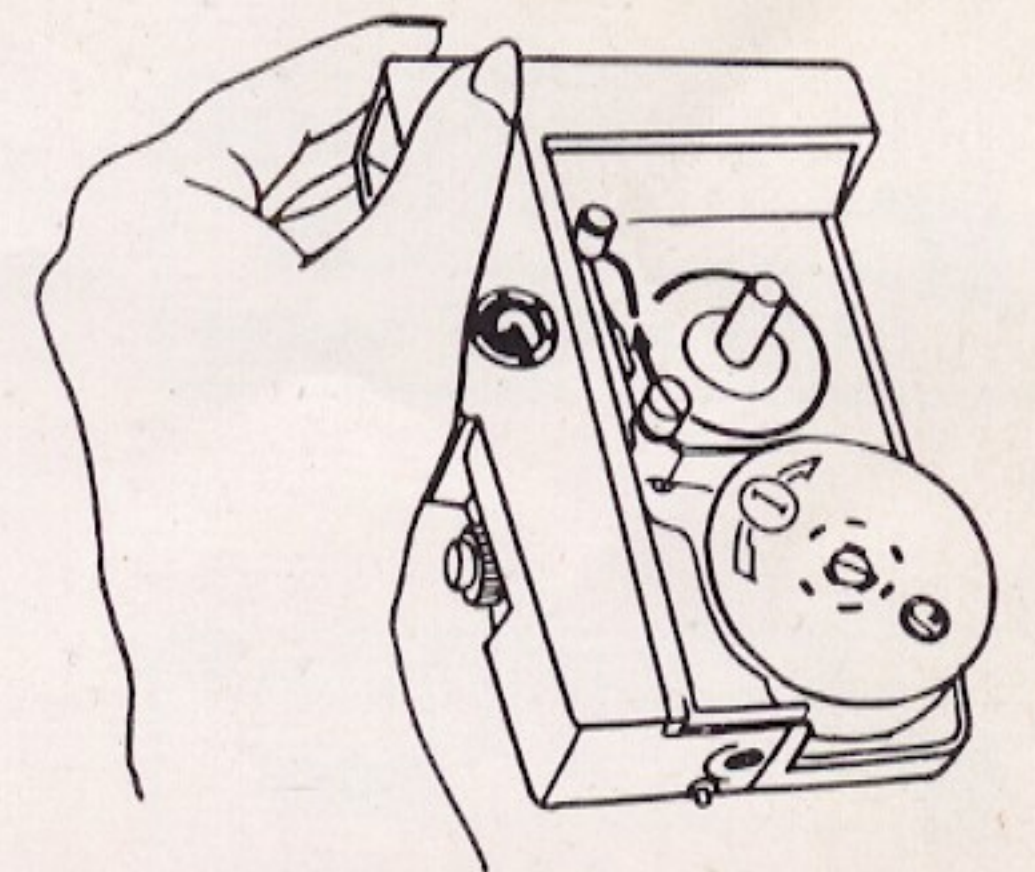
2

開閉つまみを持って横蓋をとりはずします。



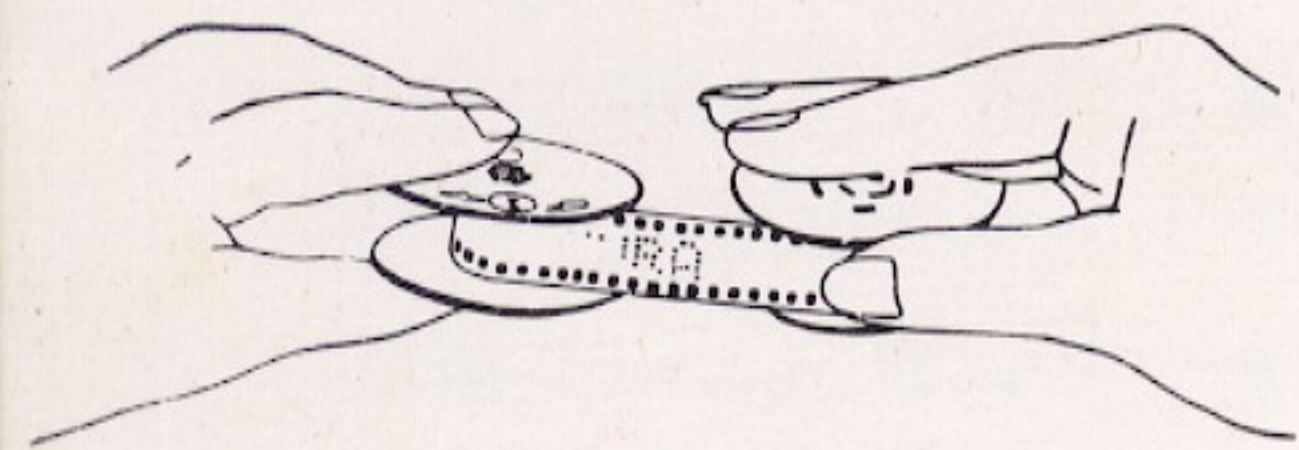
3

カメラの内部はこのようになっています。カメラに付属している巻取りスプールをとりだします。



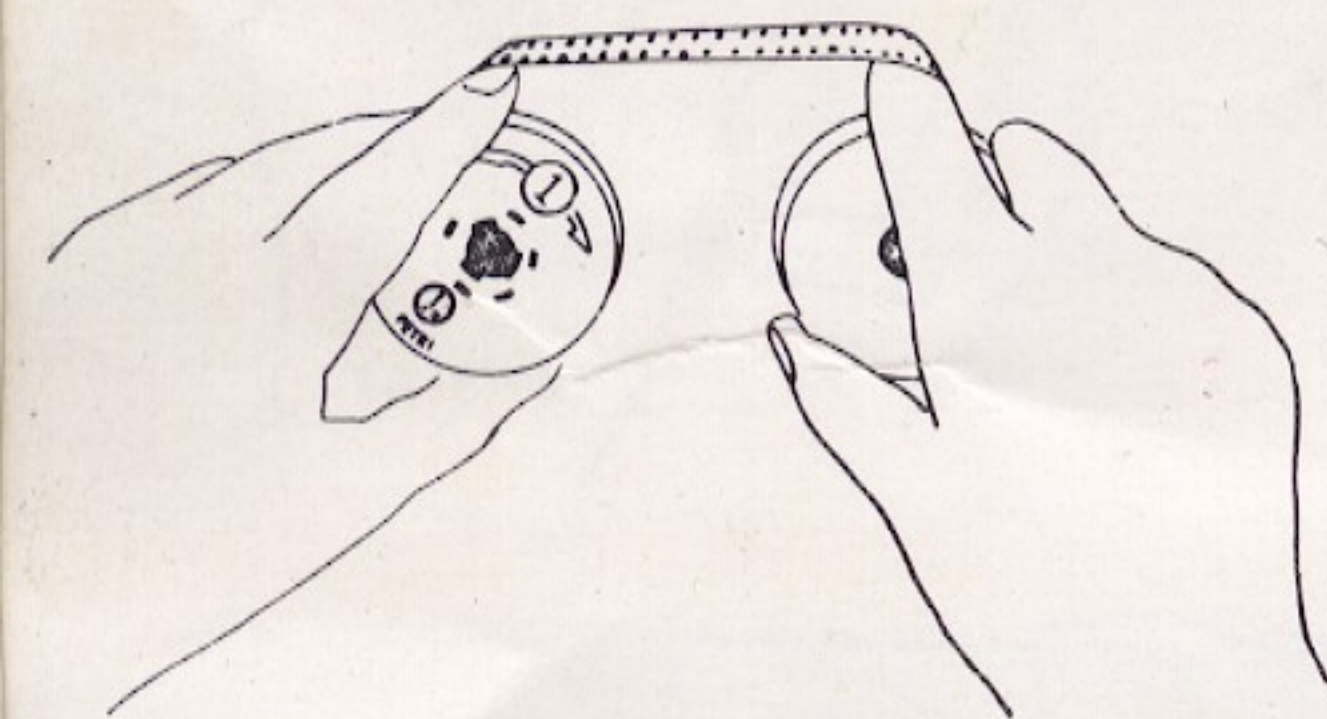
4

未撮影フィルムの封を切り、フィルムの乳剤面を内側にして先端を巻取りスプールの軸の溝にさしこみます。



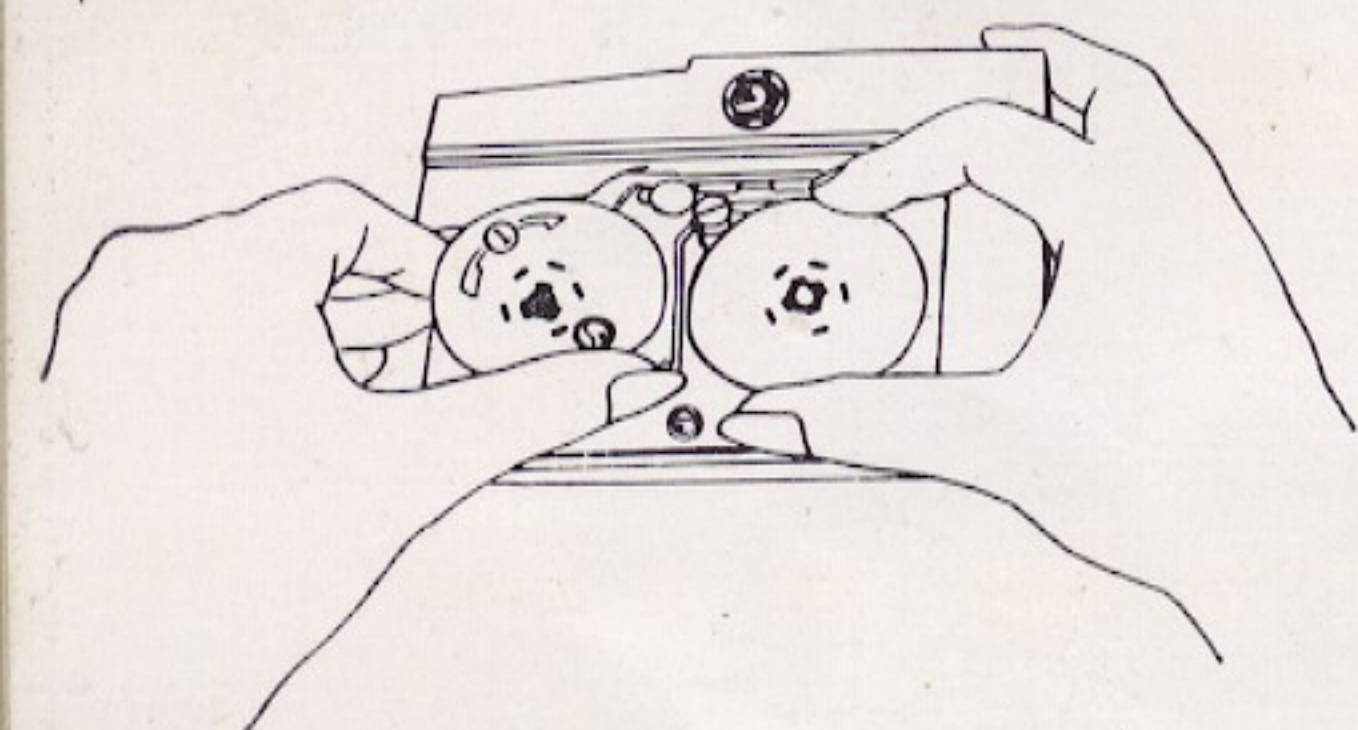
5

左手に巻取りスプール、右手にフィルムスプールを持ち、両方の人差指でフィルムにたるみを作ります。



6

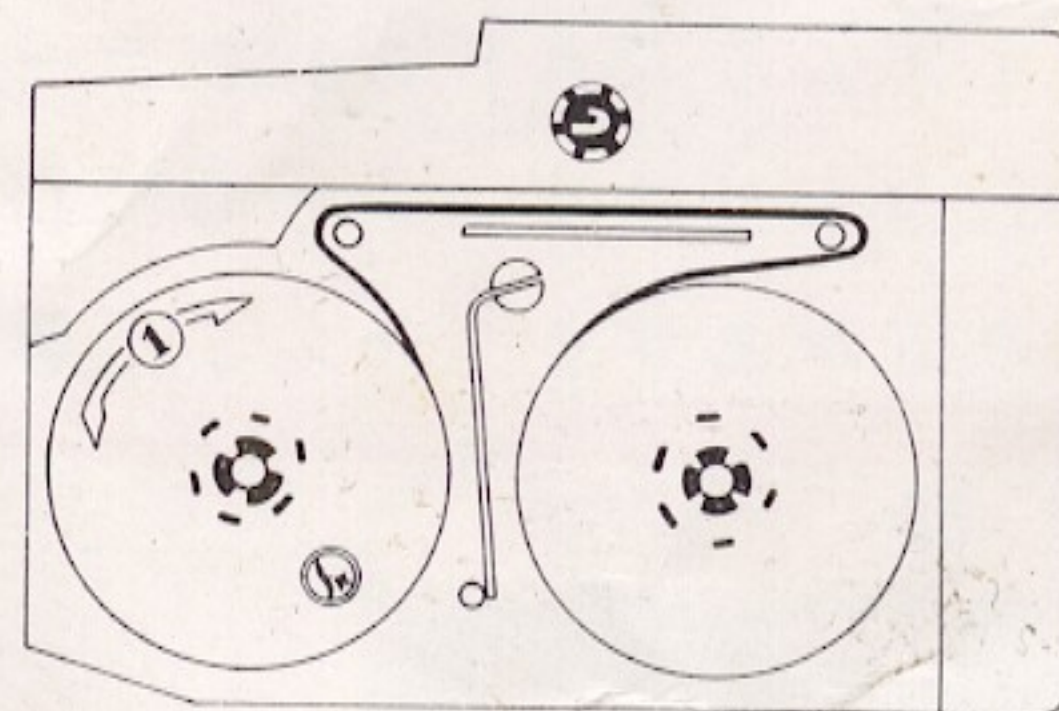
この形のままカメラ内部のガイドラインにそって、フィルムをフィルムゲートにさしこみながら、両スプールをそれぞれの軸に挿入します。



■右手にもったスプールを軸に入れ、フィルムをフィルムゲートに挿入した後巻取りスプールを軸に入れると容易に装てんできます。ここでシャッターボタンを2~3秒押しフィルムを送ってみます。

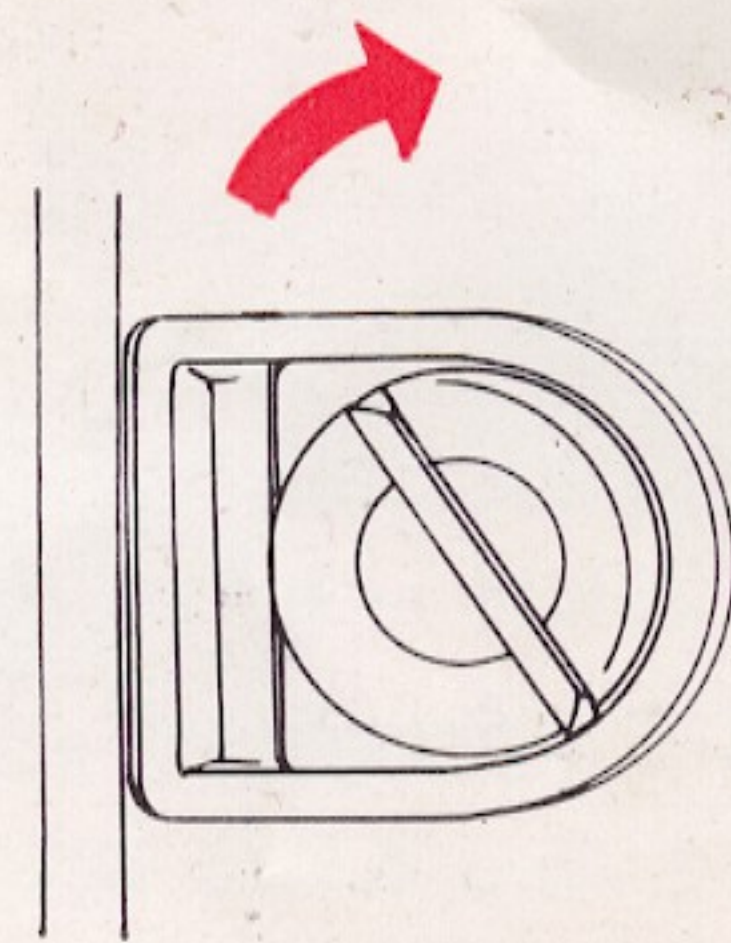
7

このとき、巻取りスプールは3つ爪、フィルムのスプールは4つ爪を前面にしておかなければなりません。



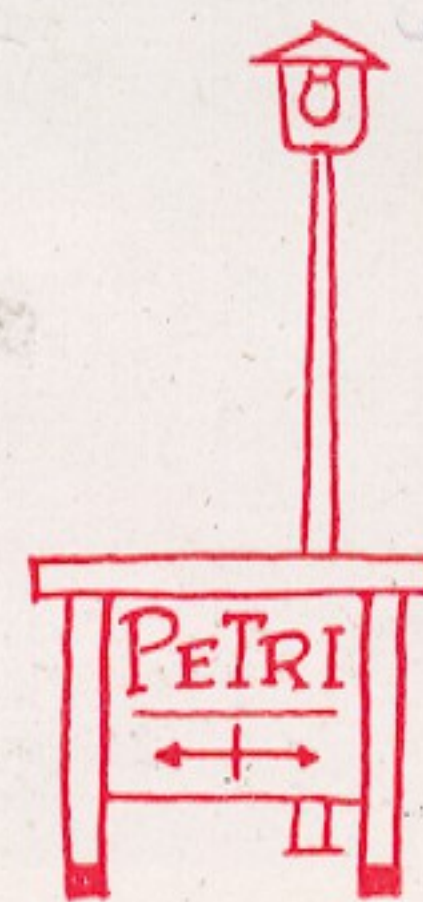
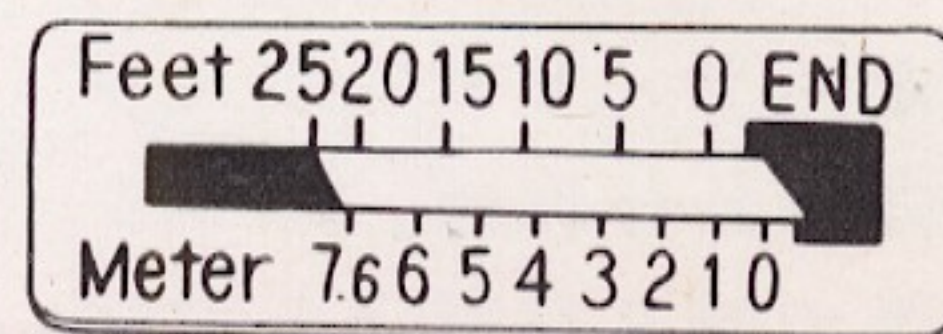
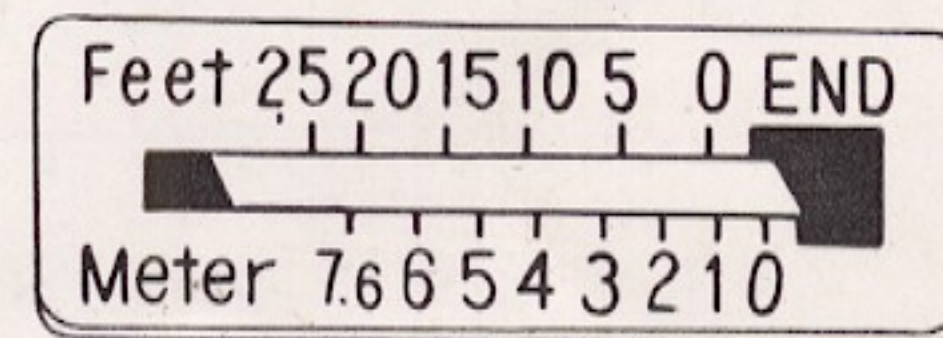
8

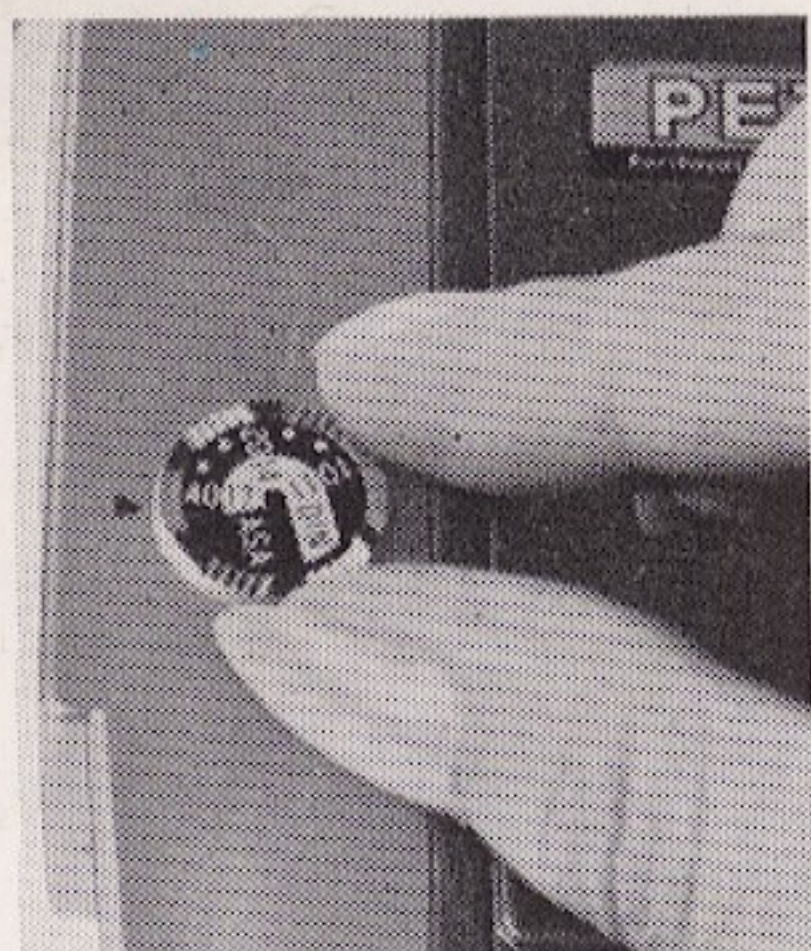
横蓋を閉じ、つまみを右にまわして(矢印)締めつけます。



9

シャッターボタンを押して、7.6メートル(25フィート)の目盛のところまでフィルムを送れば装てん完了です。





フィルム感度のセット

カメラの横蓋のわきにあるフィルム感度表示ダイヤルに指をかけ使用フィルムの感度にセットします。普通、黑白フィルムならASA 40カラーフィルムならASA 20または10に合わせます。この感度目盛はASAとDINの2種類の単位がありますからご注意ください。



自動絞りのセット

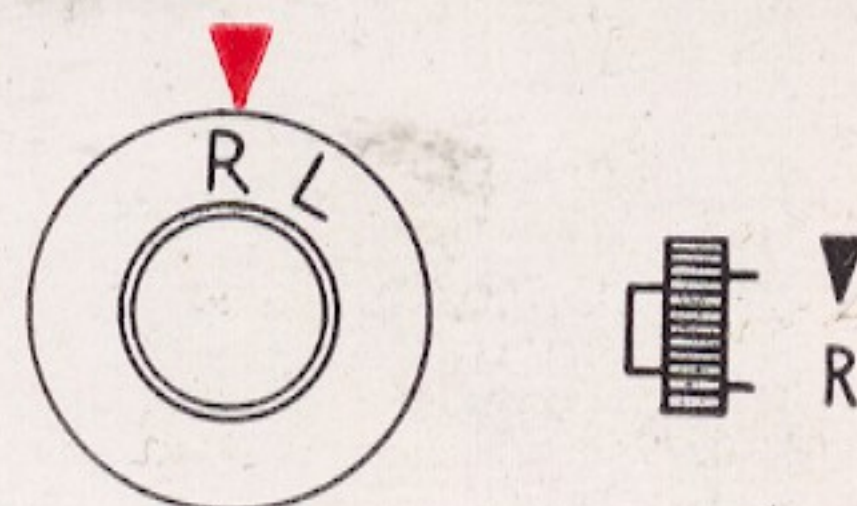
次にオート・マニュアルダイヤルを回して指標をAutoの文字に合わせます。これでエレクトリック・アイ機構が働き、明るさに応じて自動的に絞りが調節されます。自動絞りにセットしておけば露出のことは全く気にしないで撮影ができます。

マニュアル絞りのセット

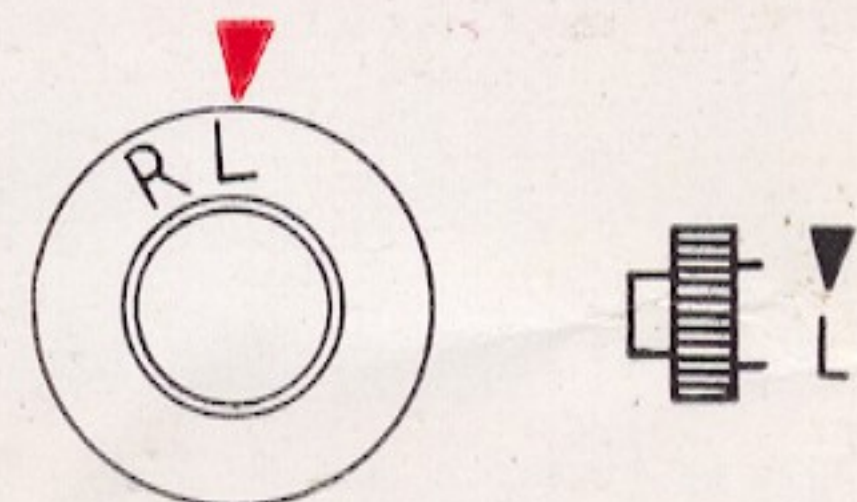
オート・マニュアルダイヤルをManualの文字側の各目盛に合わせれば、エレクトリック・アイ機構は働きません。普通の絞り目盛として使います。

シャッターボタンの使い分け

①シャッターボタン基部のリングのRを指標に合わせておけば、押している間だけシャッターが作動します。



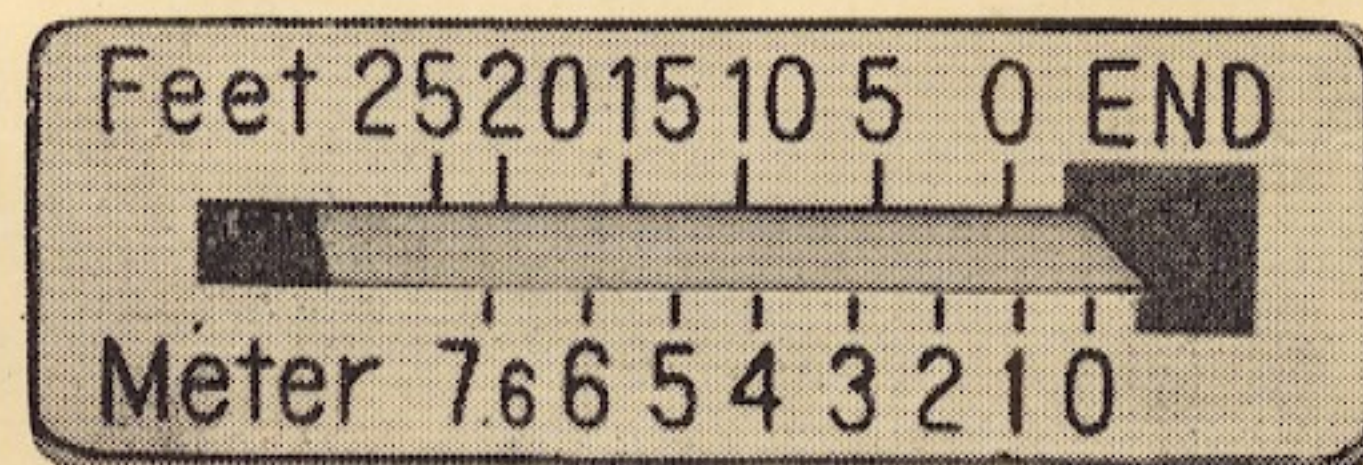
②シャッターボタン基部のリングを回して指標にLを合わせれば、携行時などに誤って押してもシャッターは切れません。



③シャッターボタンを押したままリングを回して指標にLを合わせればボタンがロックされ、Rにもどせばボタンが飛び出しシャッターは止まります。



フィルムカウンターの残数表示



ペトリ8のフィルムカウンターは、残数表示式といって、撮影した残りのフィート数（メートル数）が表示されます。ですから、あと何フィート残っているか、いちいち計算しなくてもすぐに分り、計画的な撮影ができるわけです。

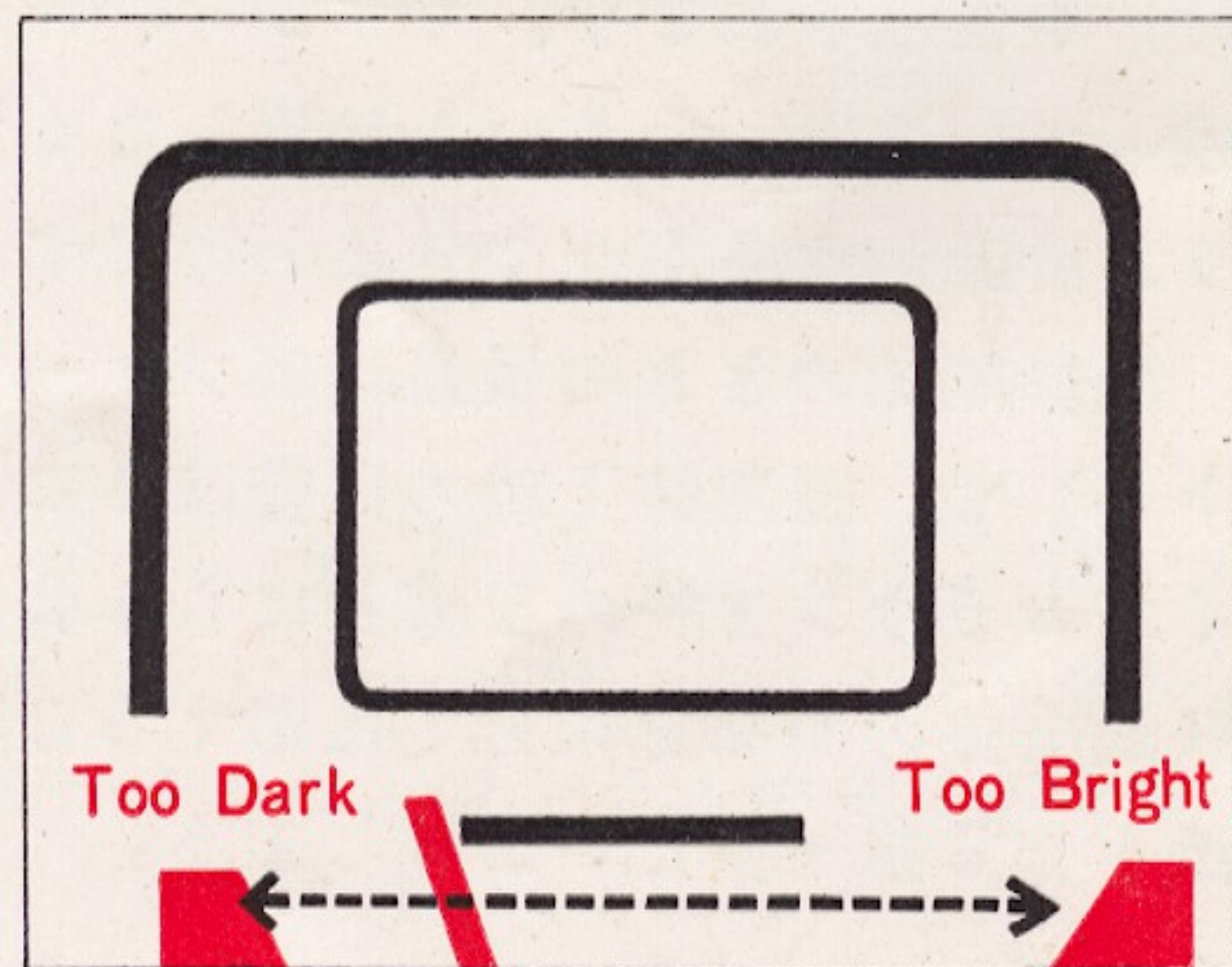
撮影開始のときの目盛は25フィート（7.6メートル）で、撮影終了時の目盛は0になります。フィルムカウンターの目盛とにらみ合わせながら、映画全体の構成を考えて撮影することが、よい映画を作る第一歩といえましょう。



エレクトリック・アイ機構の使い方

ペトリ 8 のエレクトリック・アイ機構は、被写体にカメラを向けただけで、何ら手をふれることなく、自動的に適正絞りに絞られるという極めて便利なものです。従って露出に関して全然知識のない方でも、前記のフィルム感度のセットと自動絞りのセットさえしてあれば、いつでも適正露出が得られるわけです。明るい所から暗い所へパンする場合などにも、自動的に絞りが大きく開いたり、小さく絞られたりしますから、露出のことは少しも考える必要がありません。

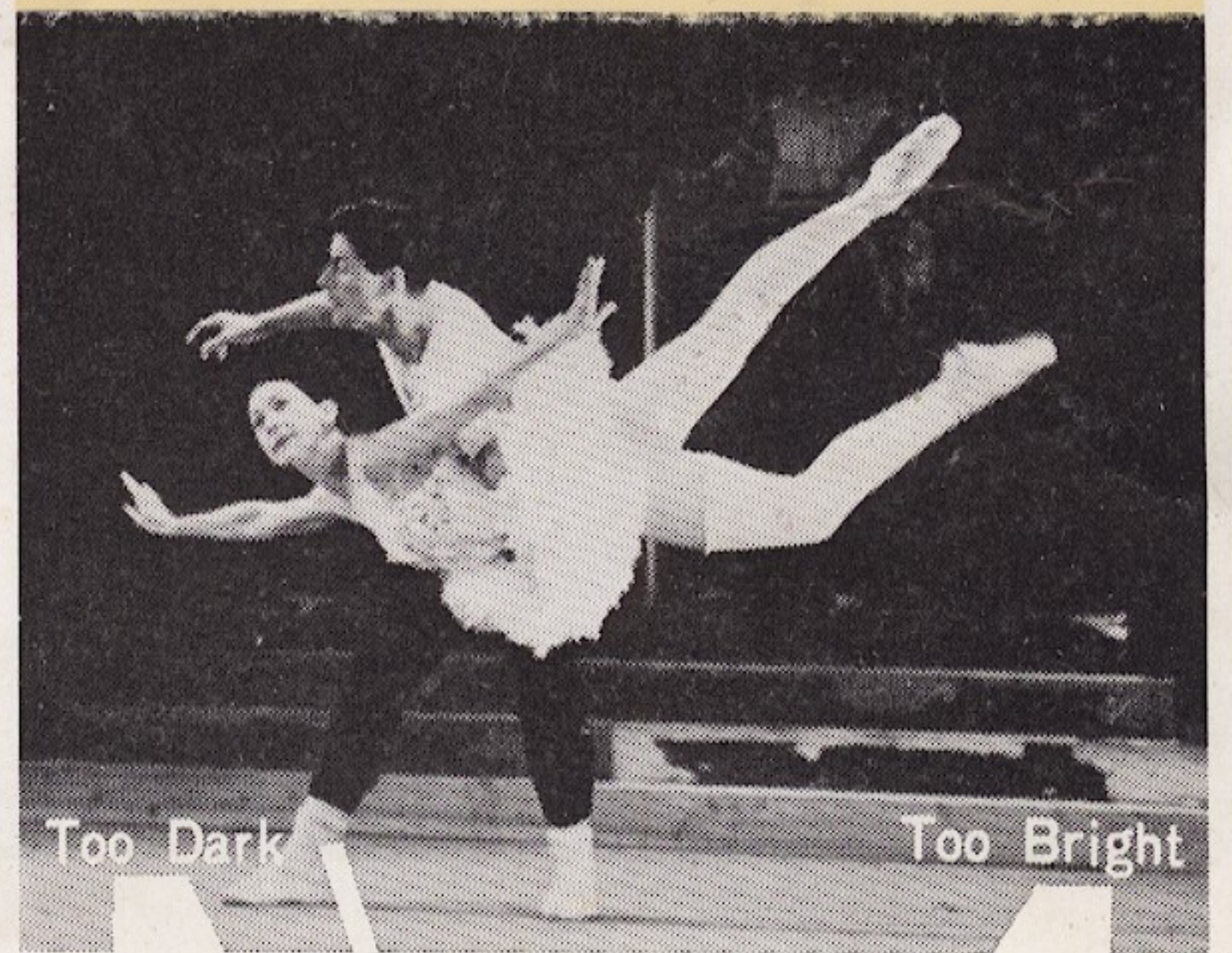
エレクトリック・アイが働いているかどうか、また被写体の明るさが測定可能の範囲内にあるか、どうかを知るには、ファインダー視野の下部に見える露出計の指針の振れ方に気をつける必要があります。つまり、被写体が明るくなる程指針は右へ寄り、暗くなる程左へ寄ってきます。しかしいずれも適正露出になっています。



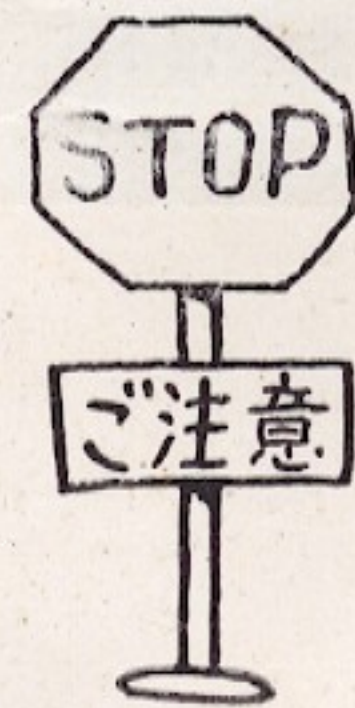
点線の範囲に指針があるときはいつでも適正露出です。



明るい被写体でも
指針は右へ寄っていますが、それだけ絞りは小さくなっているわけです。



暗い被写体でも
指針は左へ寄っていますが、これに応じて絞りが大きくなっています。



■指針が「Too Bright」にまで達してしまうと、これは最小絞りでもなお露出過度であることを示しますから、撮影を続けるためには、「感色性に関係なく露出倍数を4倍かけるND×4フィルターを用いる必要があります。」

■指針が「Too Dark」のマークまで達してしまうと、絞り開放でもなお露出不足であることを示しているわけですから、フラッドランプを用いるとか、なんらかの対策を講じなければなりません。



ペトリ8の構え方

右手でグリップをしっかりと握り、人差指をのぼしてシャッターボタンに当て、左手はカメラの上部からしっかりおさえるようにして構えると、割合い楽に安定します。このとき右ひじは身体につけておいた方がよいでしょう。またカメラの背部を顔の一部に密着させますと、一層安定がよくなります。この形で構えたまま、静かにシャッターボタンを押します。

■このカメラは軽量ですからグリップを握った右手だけでも撮影することができますが、片手撮影はやむを得ないときに限り、できるだけ両手でしっかりカメラを保持しましょう。また、慎重に撮影するには、グリップ底部の三脚穴に三脚をしっかりと固定して撮影します。



グリップの握り方はこんな具合に……

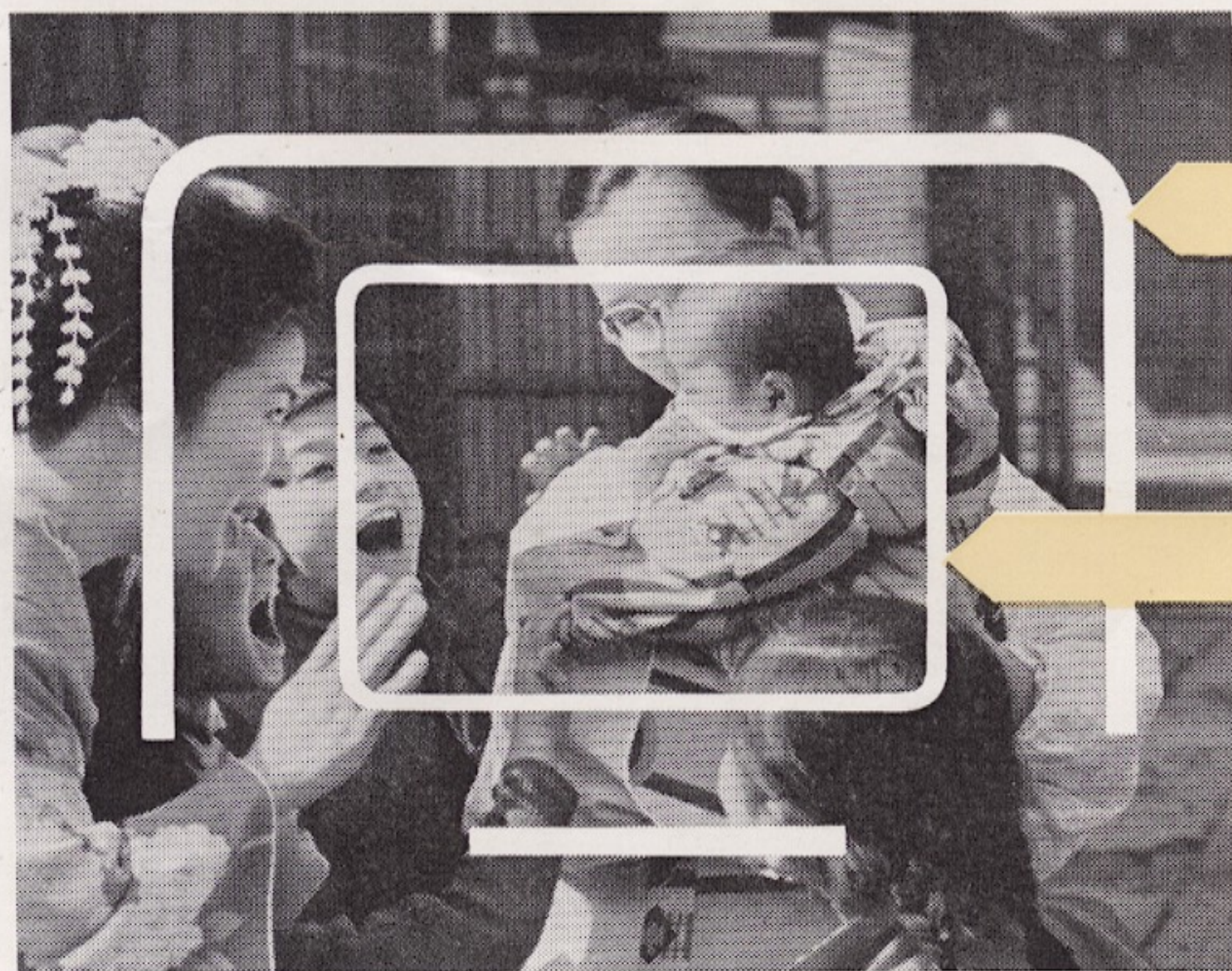
右手の中指がカメラボデーの前面に当たるように深く握ると人差指で楽にシャッターボタンを押せます。



ファインダーののぞき方

ペトリ8のファインダーは逆ガリレオ式、倍率0.46倍で、非常に見やすくできています。

アイピースからファインダーをのぞきますと、エレクトリック・アイ用シグナルの他に、視野内に大小二つのフレーム（枠）が見えます。その外側のフレームが標準レンズ用ですから、普段はこのフレームを標準に構図をきめてください。



普段はこのフレームを中心に……



望遠コンバージョンレンズを取付けたときの撮影範囲



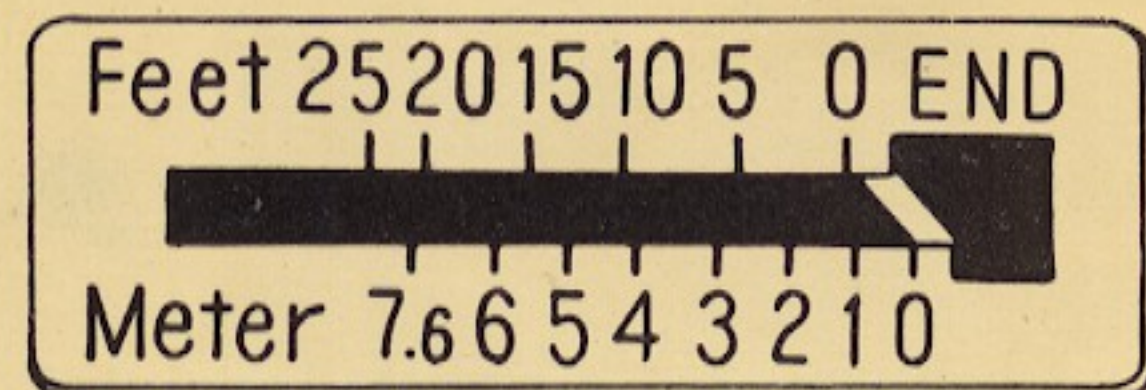
広角コンバージョンレンズを取付けたときの撮影範囲

■ファインダーはアイピースの中央に目を置いて、正しくのぞくことが大切です。

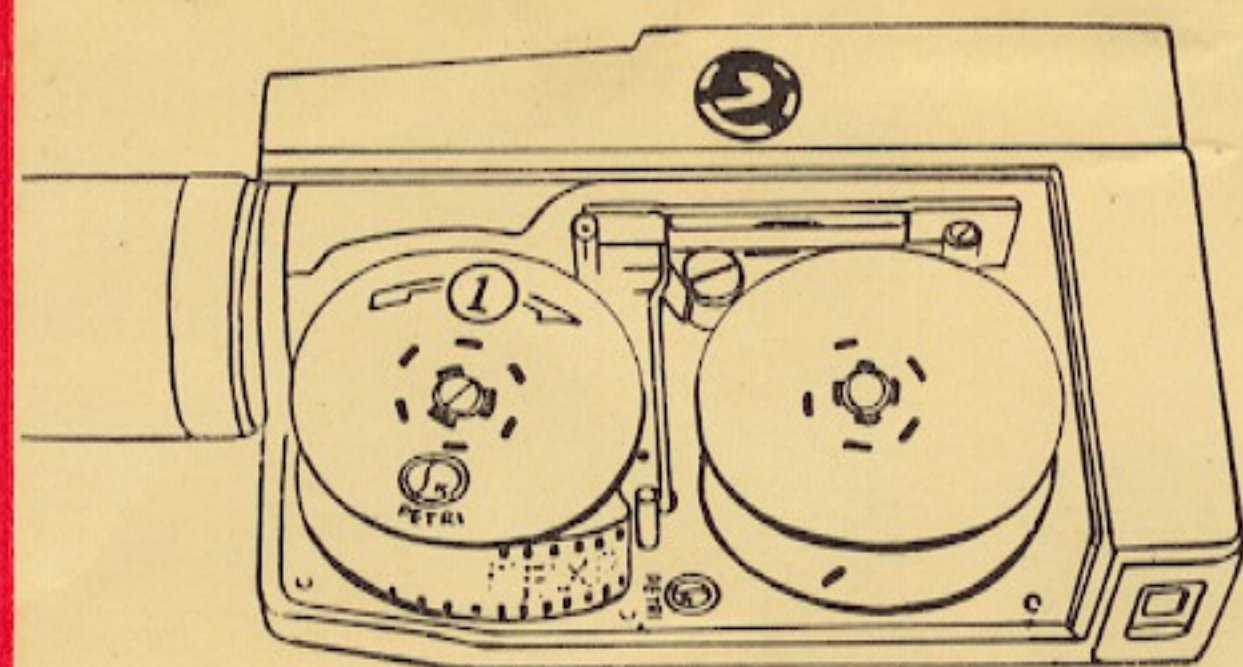


フィルムの入れかえと出し方

7.6メートル（25フィート）の撮影が終わったら、フィルムを入れかえ、更に他の片側を撮影します。



撮影がすすんで、フィルムカウンターの指標が0印になったら、撮影をやめてEND印に指標がゆくまでフィルムを空送りし、フィルムのトレーラー部分を巻き取ります。

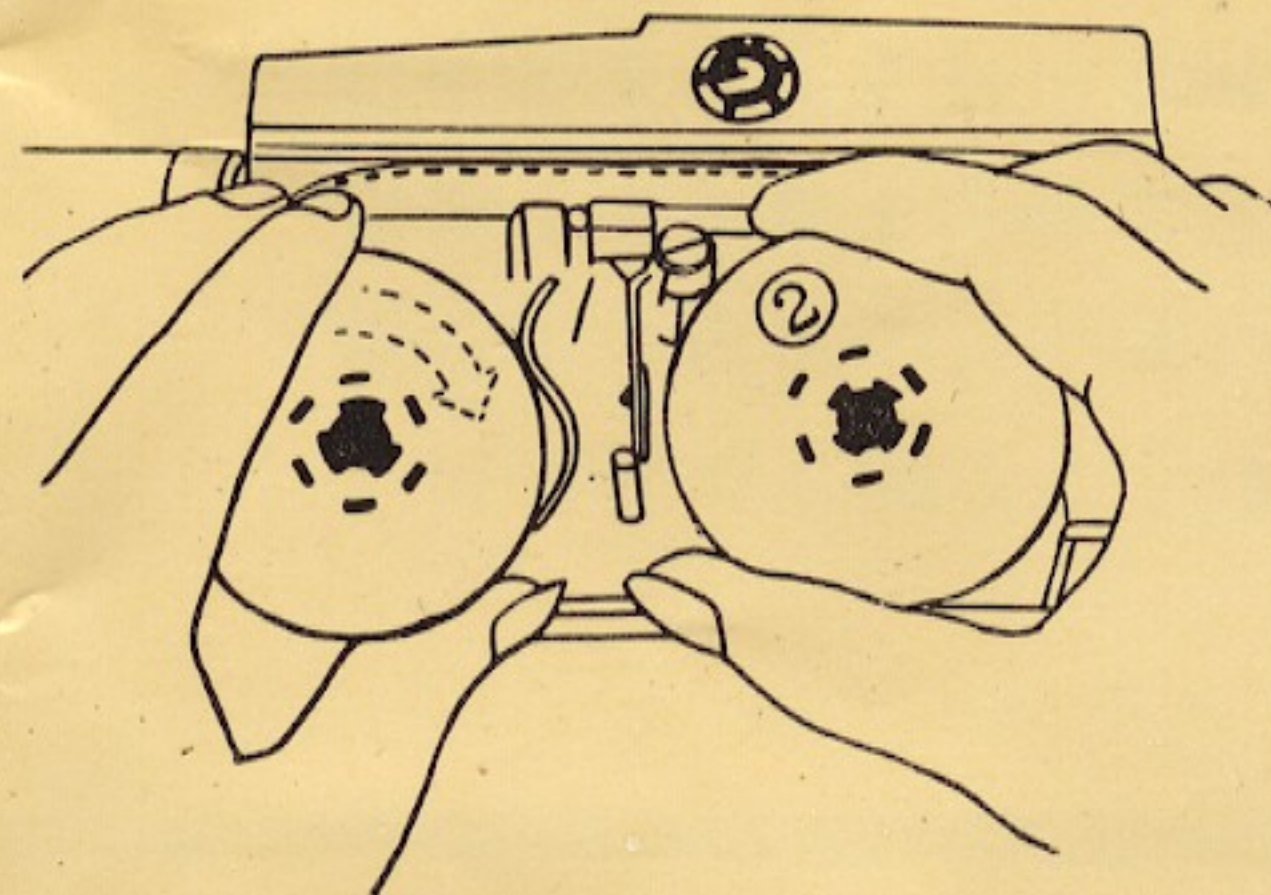


横蓋を開きますと、フィルムは巻取りスプールに巻かれています。もしフィルムの末端がフィルムゲートに残っていたら、巻取りスプールを指で回して完全に巻取ってから両スプールを取り出します。

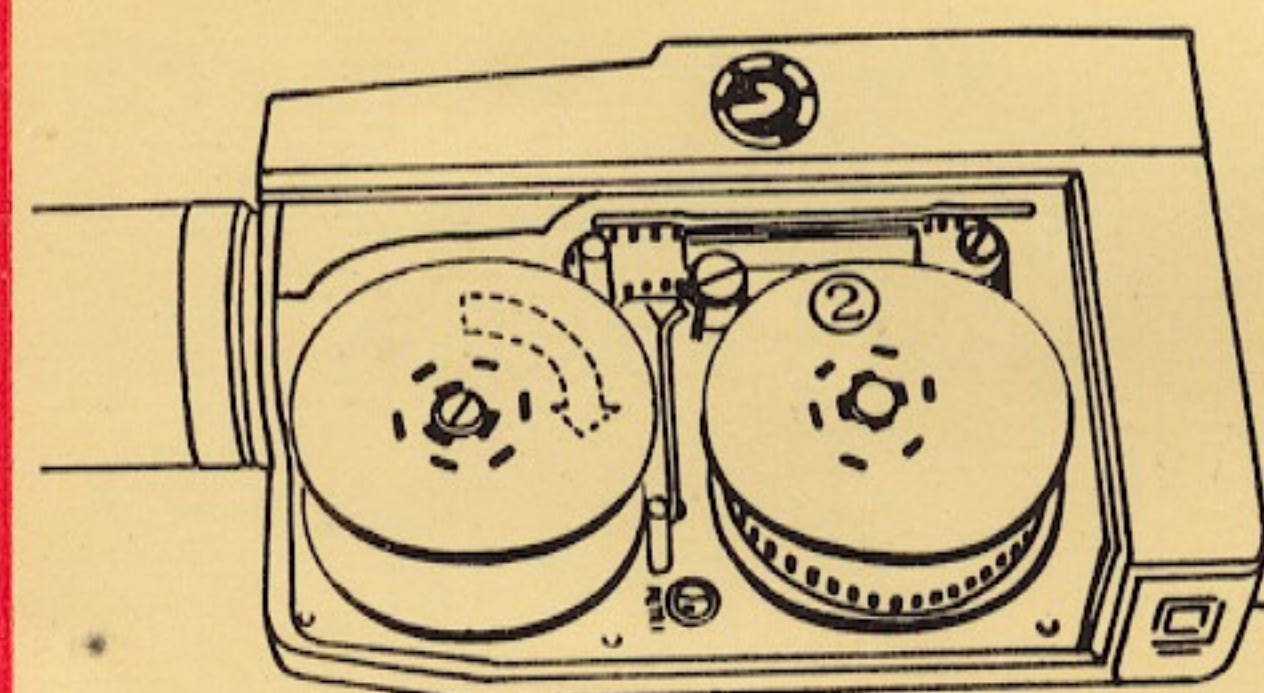


■フィルムを取出すときはスプールからほどけないように、フィルムをおさえることが肝心です。またもし、フィルムの末端がフィルムゲートに残っていたら、巻取りスプールを指で回して完全に巻きとってからスプールを取り出してください。

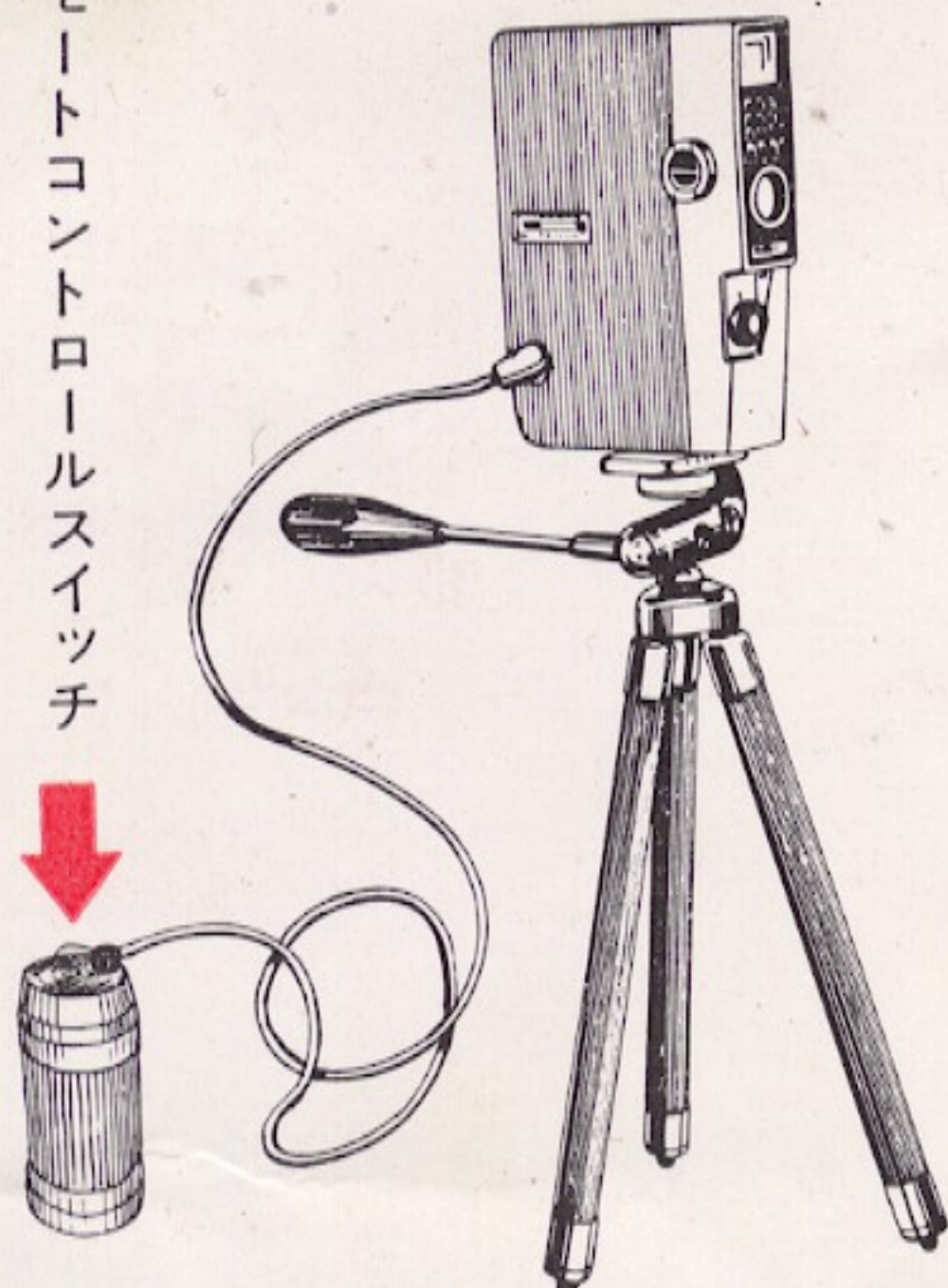
■往復撮影終了後は必ずペトリのマークの入っているスプールがカメラに残ります。



それぞれのスプールを裏返えした上で左右を入れかえ、フィルム装てんの要領で再びカメラに収めます。右手のスプールには②のマークがあって4つ爪が前面に、左手は3つ爪が前面になっています。



フィルムに入れかえが完全に終わった状態です。ここで横蓋を閉じ、フィルムカウンターが7.6メートル（25フィート）の目盛になるまで空送りをした後、再び撮影を開始します。



リモートコントロール撮影

ペトリ8は付属品のリモートコントロールスイッチを使って、遠隔操作を行うことができます。電池ケースをカメラボデーから離して、これにリモートスイッチをねじこみ、コード（5メートル）の先端にあるさしこみプラグをカメラボデー側面のリモートコントロール・ソケットに直結します。次にカメラのシャッターボタンを11頁③の要領で押したままの状態にロックすれば準備完了です。

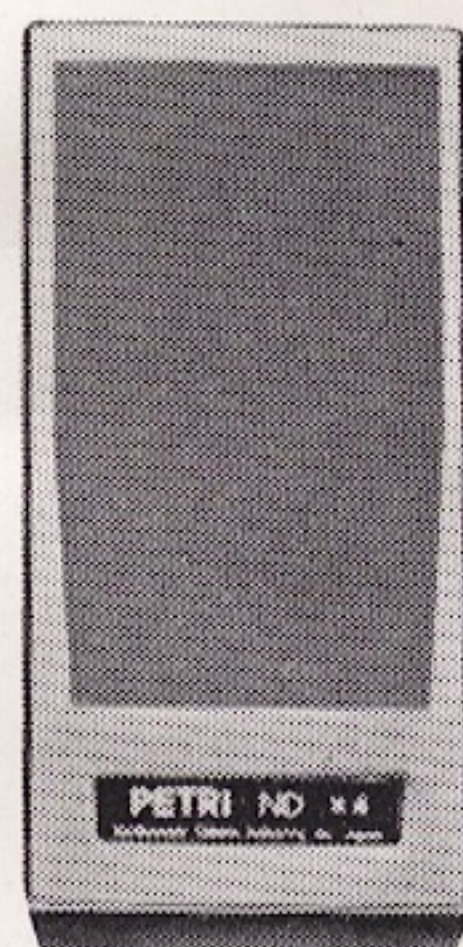
カメラを三脚にすえたら、電池ケースを持ってカメラから離れ、リモートスイッチを押して撮影します。

ペトリ8のアクセサリ

テレ・ワイドコンバージョン レンズ

レンズの前面にねじこむだけで望遠
または広角レンズとなります。

望遠・焦点距離22.1ミリ（1.7倍）
広角・焦点距離9.1ミリ（0.7倍）



専用フィルターについて

ペトリ8には専用のフィルターが用意されています。その装着はフィルター枠上部の爪を、カメラのファインダー窓下部にあるみぞに引掛け、前面から軽く押せばパチンと所定の位置に取付けられます。レンズと共に露出計受光部もカバーされるので、フィルターの露出倍数が自動的に補正されます。取外しは取付と逆に下側から外します。

明るい被写体には 絶対必要なNDフィルター

ペトリ8の露出は絞りの大小で自動調節されますが、夏の海岸や冬のスキー撮影のように、極めて明るい被写体の撮影では、最小絞りにしてもなお露出過度になる場合があります。ND×4フィルターはそういうとき絶対必要なアクセサリです。このフィルターは感色性に関係なく、露出倍数が4倍かかりますから、どんなに明るい被写体でも困ることはありません。

リモートコントロール スイッチ

遠隔撮影装置
コードの長さ5メートル

バッテリーテスター

リモートコントロール
用ソケットに当てるだ
けで電池の残存量が分
ります。



フィルターの種類と用途

黑白フィルム用

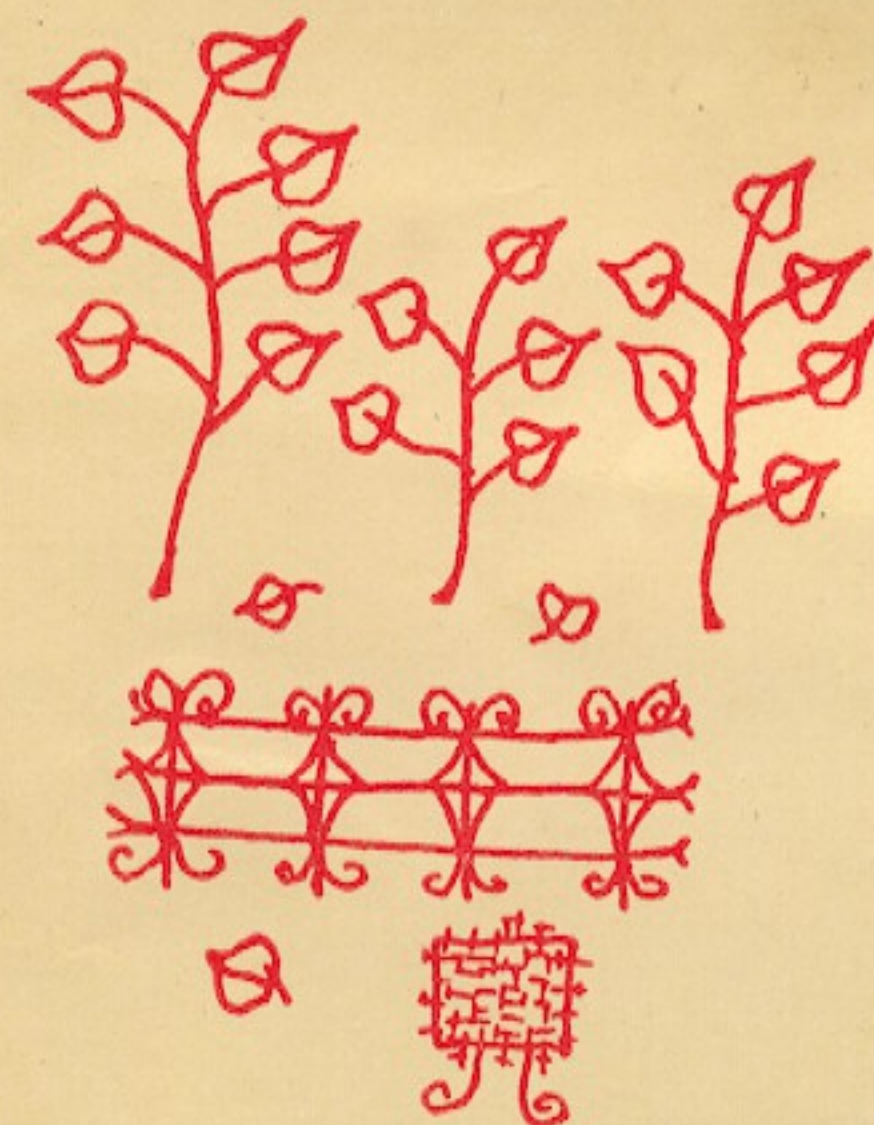
- UV (無色) 紫外線カット用(カラーにも使えます。)
- Y1 (淡黄色) 戸外人物や風景を自然な感じにします。
- Y2 (黄色) Y1よりやや濃い色で、青空の調子を落とすので特に風景撮影に適します。
- NDX4 (灰色) 中庸濃度で感色性に関係なく、露出倍数だけが4倍かかります。(カラーにも使えます。)

カラーフィルム用 (昼光用)

- W4 (温調用) 曇り日など青色の強い被写体の撮影に使うと自然な感じにします。
- C12 (写真電球用) フラッドランプによる室内撮影用。
- IA (微赤色) 紫外線カット用

ペトリ 8 取扱い上のご注意

- ①フィルムゲートは特によく手入れしておきましょう
カメラ内部をきれいにしておくことはもちろん大切ですが、特にフィルムゲートにフィルムのカスやホコリがたまりまると、フィルムをキズつけたり故障の原因となります。ときどきやわらかいブラシで清掃してください。
- ②乾電池の扱いにも気をつけましょう
長期間カメラを使用しないときは、乾電池をケースからとりはずしておきます。
- ③カメラをしまっておくには
湿気や熱やホコリから守ってやりましょう。樟脳やナフタリンをそばに置くのも感心しません。油をさしてはいけません。



PETRI PETRI PETRI PETRI
PETRI PETRI
PETRI PETRI
PETRI PETRI JAPAN

ペトリカメラ東京センター 東京都千代田区九段2-5

ペトリカメラ大阪センター 大阪市南区鰻谷西ノ町11-4

栗林写真工業株式会社

東京・ニューヨーク・カナダ・オランダ